

職員として応募される皆さんのために

施設運営のご紹介

養護老人ホーム愛友園

特別養護老人ホーム愛友園

http://www.ayuuen.server-shared.com

社会福祉法人

愛友園

〒310-0034

水戸市緑町3-9-35

電話 029-221-6157

福祉施設に就職を希望される皆さん

介護をはじめとした各専門の職員が日々汗して、ひやりはっとで緊張し、先輩、同僚から学び、利用者の「ほのぼのとした一言」でほっとする…毎日が貴重な経験の積み重ねです、利用者と家族からの感謝の一言で嬉しい涙と笑みが自分の成長を感じる…

「仕事は楽しいけどそれだけにやりがいがある」…種々の課題に取り組む職員と愛友園の特色を紹介させていただきます。

施設運営では職員の「自己成長」と「協力、助け合い」がやりやすい方法を心がけています。利用者と家族から私たち職員に期待される第一は「人間としての誠実さと信頼感」にあると考えます。もちろん介護の専門知識や事故防止の安全意識をきちんと持つて実行出来ることが大事になります。

愛友園の「経営＆運営の理念」では「介護を通じて職員の人間性を成長させることと職員相互の連携と協力」を主題にしています。

職員に期待される人間性とは画一的でない個性、いわゆる「良きパーソナリティ」を尊重しそれが發揮出来ることと考えております。

個々の人間の個性を大事にする運営では他の職員相互との「協力」が必須な条件になります。

職員は「性格の違い」、「体格の違い」から「年齢、経験の違い」、「声が出せる、声は小さい」、まで異なるのです。普段言葉少ない介護者ですが利用者の目線になるように必ず腰を落とし、やさしくゆっくり話しながら聞いてくれます…信頼される良き個性です。



「行動の早い人」、「じっくり緻密に計画する人」など、それに強みを生かし合えば違って良いのです。さらに、利用者の身体的、心的介護に応える介護者自身も身体的、心的負担を出来るだけ少なくなるよう工夫し心がけるべきです、施設責任者も意識している大事なことです。職員が協力し助け合うことを強調する意義がここにあります。

介護部門の状況と要望に常に視点を置いた施設長、看護師、管理栄養士、生活相談員等専門職員の連携も基本的な施設運営の姿勢にしています。

職員の「協力、助け合い」のやりやすいのは施設規模（40床）と運営制度形態とも関連しています。愛友園の特別養護老人ホームは「多床型」のため「ユニット型」のような職員固定は無く、職員の助け合いや緊急時の応援がしやすくなっています。

『職員の助け合いがやりやすい』ことは『利用者の満足度を確かにし、安全と安心の介護』と『職員が個性を生かしながら、継続した自己成長をする』ために絶対に必要であると考えています。



より良きケアと 自己成長！

仕事をしていて、現在の仕事に、今の自分に疑問を持つことはよくあることだと思います。どうすればもっと安楽な排泄ケアが出来るだろうか？どうすれば食事を美味しく上手に食べて頂けるのか？等々仕事に真剣に取り組むほどに様々な疑問・課題がわいてきます。そんなとき私達は、各種の研修会へ参加し自分や仲間のスキルアップに繋げています。平成19年度の愛友園内の研修は34回、延べ参加職員数は1,100人を超えるました。勿論外部研修会へも20回50人の職員が参加をしています。危機管理、問題解決手法、感染

対策、身体拘束0、看取りケア、介護技術方法等、どの研修も現場に即した内容としています。知識の押しつけにならないよう各人のレベルに合わせスキルアップに繋がる研修計画を考えています。学びと実践を通して自分自身が成長していく時、同僚、そして利用者、ご家族からの信頼もえて、仕事への自信と誇りにも繋がってきます。



戦 前ホームレスの人々を受け入れることから始まつた当園は、現在も創設の理念を引き継いで様々な困難な状況にある方々を受け入れてあります。アルコール依存症の息子達を持ったご夫婦が度重なる子供達からの**暴力・介護放棄**を受け続け、その間、市役所担当者、社協地域推進員、保健所とが一体となって対応をしていましたが、生命の危険もあることから一刻も早い子供達からの分離が必要となり、緊急入院、その後養護ショートでの受け入れを経て、現在お二人は特養・養護でそれぞれ生活をしております。この

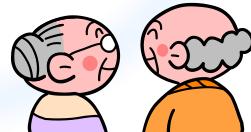
糾の回復の為に！！

夫婦、親子での入所

間、脅しの電話や度重なる訳の分からぬ話からご夫婦を守り抜きました。増えている虐待のある家族の調整と問題解決の難しさを痛感しています。お二人は安心

した普通の暮らしができる幸せをいつも顔を見合わせながら感じていることです。当たり前の暮らしを支援して行くことは本当に難しいこと

ですが、お二人の姿を通して、私達職員に託された責任の一端を担うことが出来たことは、職務を通して自分自身が少しだけでも成長したのではと思、この仕事に就いたことを誇りに思います。



直営だからこそ！

ソフト食バイキング～利用者の喜ぶ顔が見える～

食 は利用者にとって健康を維持する為だけではなく、大きな楽しみの一つになっています。機能低下により普通の食事が食べられなくなっている人には“ソフト食”(他施設に先駆けて)を提供しています。きざみ食ではない、形がありながら歯茎で容易につぶせる、見た目にもこだわった食事です。四季毎のソフト食バイキングは、利用者や他職種の意見を聞き、給

食グループ全員で話し合いを重ねながら実施しています。毎回とても美味しく食べやすかったと評価を頂いています。



利 用者と職員が月1回、一緒に近隣の魚市場に魚の買い出しに出かけています。威勢のいい声、沢山の種類の魚、お客様の多さで賑わい、活気のある市場を見学し、新鮮な魚を購入します。買った魚はその日の夕食や翌日に焼き魚や煮魚、揚げ物等にして提供します。お目当ての魚がみつからなかった時は、すぐに献立

を変更し他の魚を買い付けています。毎回値段もサービスもうれしい買い物となっています。





給食・事務まで加わり終日の連携見守り

養護を併設しているため出入り口が多く、日中は施錠をせず自由な出入りにしています。したがって特養の徘徊者には格別の対応が必要になります。見守りの隙に外部へ出られたKさん、厳冬での命と交通事故等を思うと絶対に自分たちの手から離してはいけないと反省をしました。Kさんの行動を抑制しないで施設内を安全に過ごさせるには見守りの隙を作らぬことしかありません。



特養の介護者が交互に主役となり自分たちの食事のテーブルに、会合の場に同席?させる毎日としました・介護者は大変です。食事の後と、お風呂の準備の時間だけでもと給食と事務の職員がバトンタッチします、好かれるお人柄のKさんです。



その外にも所在不明時の緊急放送訓練を全職員参加で実施します。



認知症に関する事例研究も継続実施しています。



いつまでも、同じ屋根の下で暮らしたい・・・



全国的にも珍しい同一建物内に特養・養護老人ホームを持つ愛友園。例えば、ご夫婦でどちらかが要介護状態となり特養入所を希望、しかし状態の違うご夫婦がずっと同じ屋根の下で暮らしたいと願った時、又、ハンディを抱えた親子が高齢と要介護状態で在宅生活が限界に来た時、一緒に暮らせる施設を希望した時にその想いを叶えられる施設はなかなか見つかりません。愛友園の持っている特徴である機能を活かし行政機関との連携の中ご夫婦、親子での入所を

積極的に受け入れることにより利用者ご本人と地域の皆様から信頼を得ているところです。



お別れ会の涙・涙

お元気に愛
友園で生活をさ

れていた方ともいつの日かお別れをしなければなりません。身寄りのない方や、様々なご事情によりご家族での葬儀が難しい方には生前のご本人のお考えと実施機関、ご家族の依頼により、他の施設にはない「お別れ会」を実施しています。生花を飾り祭壇が用意されご遺族、利用者、市町村担当者、職員が一堂に会し、黙祷を捧げ、讃美歌が流れます。参列者の中から、故人の思い出やお別れの言葉をいただきます。愛友園で過ごしたその人の日々を振り返りながら、その人らしい愉快なエピソードや、今まで知られていなかつた介護の苦労話も出でてきます。話を聞きながら

その人と一緒に過ごした時間が走馬燈のように駆け巡り、話しをする人も参列者も涙が止まらなくなることがあります。お別れの花を棺に納めながら、その安らかなお顔に接する時、お別れの寂しさと共に愛友園でその生を全うして下さったことへの感謝と命を無駄にすることなく生きることの大切さを実感します。



高齢者福祉施設として愛友園の特徴について

同一敷地の同一の建物に養護老人ホームと特別養護老人ホームが運営されていますので利用者にとって多くの利点があります。

運営制度の違い（養護老人ホームは措置制度、特別養護老人ホームは介護保険制度）がありながら同一建物に両施設が併設されている例は少ないので、本来高齢者の立場に視点を置けば身体と心が弱くなる変化に対応し両方の機能が連携出来る施設として理想的なものと自負いたしております。

養護利用者が要介護状態になられても特養利用者と

して契約するのみで、同一施設内で生活を続けることが出来ます。

責任者、職員（介護員、看護師、栄養士、調理員、生活相談員、事務担当）が全てに協力し易いので安全で安心のサービスが提供出来ます。利用者同士のふれあいが持て、多くの行事参加、施設機能の利用まで一緒に楽しめますので「自立した長寿のための生き甲斐」と「老化防止に必要な創造性」の機会が得やすくなります。

職員のスキルアップ、キャリアアップを心がけます

採用時の体験実習と新人の育成支援について

1. 「体験実習」：愛友園独自の制度を持っています。

目的：

求人側、求職側双方の情報（条件、要望等）を出来るだけ一致させて、採用（求人側）と就職（求職側）の決定過程を公平に、大事にし、長く勤務していただきたいということが趣旨です。

実習日数：

3日（MIN）から7日（MAX）分の日程を決めて下さい（連続でなくても可）。

実習手当：

上記目的での実習手当を下記の通り、実習終了時にお支払いいたします。

実習手当 3,000円／1日(8H)

2. 「新入職員研修」

目的：社会人として、福祉施設の職員として行

動出来るよう知識や考え方を身につけていただく講座を用意しています。

* 愛友園独自の教育カリキュラムを使用します

内容：経営と運営の理念、規定類、施設の制度と取り組み事業、利用者への接し方、言葉遣い、危機管理（生活事故、与薬管理、感染症、防災）、決まり毎を理解する、会議、委員会等。

日数：一日 30分～1時間、10日間

3. 「新入職員の育成と習熟支援制度」

目的と内容：新入職員一人々に先輩職員（2～3年）が3ヶ月間、専任で担当し、お姉さん、お兄さんの立場で指導と相談役をしてくれます。仕事のやり方はもちろん悩みまで気楽に聞いたり、指導を受けることが出来ます。新入職員の皆さん「一日も早く不安を取り去り、「信頼され行動出来る職員になる」ように育成する制度です。

労務・福利厚生について

1、各種社会保険制度加入

健康保険、厚生年金保険
雇用保険、労働災害保険

2、退職金制度

3、福利厚生

研修旅行 年1回 3班体制にて全員参加し
職種間の親睦を深め、他施設等の見学もあります。
30,000円の補助がされます。

その他は求人要項をご覧下さい。 ☆直接来園される方への対応も随時いたしております。



研修旅行